

PALAU

SORA

web magazine 2015.jun. vol.59

Travel



MAP
CLICK!

Photo & Text : Yasuaki Kagii

毎月、新月前の数日に見られるというカムリブダイの大産卵。その大迫力のシーンを見られるのに大興奮だが、嬉しいのは、産卵という生態シーンの観察でありながら、意外と簡単にそのシーンが見られるということ。潮の流れもなく、待つ時間もほとんどない。ただ、そのタイミングで海に入り、それからは、目をしっかり開けていること。そんな素敵なタイミングを教えてくれるのが、現地ダイビングサービスのオアシス。今回は、定番のブルーコーナーやブルーホール他、目的を持つことで貴重な体験ができる沈船ポイントなどをお伝えする。

カムリブダイの大産卵を見に、 パラオへやって来た!

何百、何千のカムリブダイの群れが 集団での放精放卵

PALAU
パラオ

5月の中旬、パラオにやってきた。目的は、カムリブダイの産卵を見るため。情報では、毎月新月前の数日間に集まり、あの大きなカムリブダイたちが産卵を行うという。朝5時半、ホテルにダイビングセンターのスタッフがお迎えに来てくれる。まだ夜は明けていない。ダイビングセンターで用意をしていると薄らと空が明るくなり、出航して、ボートを走らせていると、そのスピードに呼応するかのように、朝がどんどん明けていく。約30分間、新鮮な空気を浴びながら、ポイントへ。そして、ブリーフィングを聞いて、もうすっかり明るくなった海中へ。潜水時間6分ほどで、興奮のために顔が白くなったカムリブダイのペアを発見。潮が下げ始めるとカムリブダイが集まってくる。そのまま潮の流れに身を任せていくと、砂地に到着。もうその頃には、周囲には何百のカムリブダイたちが泳いでいた。砂地の上を泳いでいるので、彼らの姿がよく見える。そしていくつかのカムリブダイたちが、まとめて急浮上しては、真っ白い粉を吹き上げてから、急に下に泳ぎ去る。まさしく、カムリブダイの壮大な産卵シーンだった。朝日が燦々と降り注ぐ水中では、新しい命がどんどん生まれていた。カムリブダイの多さにも驚いたが、一番驚いたのは、生態観察のしやすさ。新月前のタイミングを合わせると、こんなにも簡単に貴重なシーンに会えるなんて、これはすごい。多少ダウンカレントなどが生じることもあるそうだが、基本的にはしっかりと中性浮力が確保できていれば大丈夫だろう。カムリブダイの大産卵、ぜひ、みなさんにも体験して欲しい。

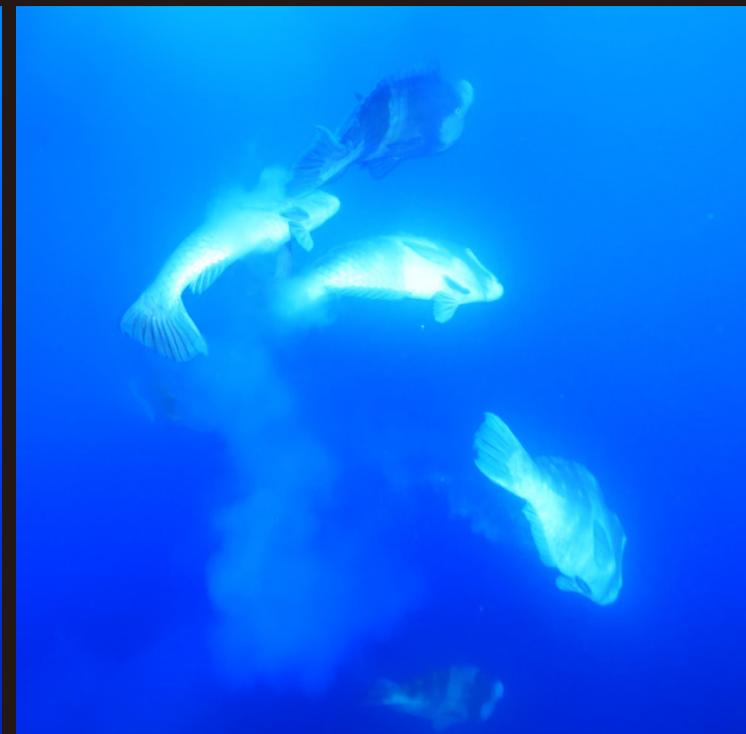




PALAU
パラオ



毎月新月前の特大イベント、カムリブダイの産卵



毎月行われているカムリブダイの産卵予定日

2015年 8月10～13日・9月9～12日・10月9～12日・11月8～11日・12月7～10日

2016年 1月7日～9日・2月5日～7日・3月6日～8日・4月4日～6日

7、8、9月は海が荒れる可能性があるため、その他のシーズンがおすすめ。しかし、夏のシーズンでも海況が安定していれば、大丈夫。

カムリブダイの後はウーロンエリアでダイビング!

PALAU

パラオ

カムリブダイの産卵が行われるラスランドは、ウーロンエリアに位置する。コロールの西側にあるウーロン島周辺は、メジャーポイントが多く集まるゲメリスよりも移動距離が短く、利便性が良い。また、潮流に影響されるおすすめポイントがいくつか揃う。カムリブダイの産卵を見た後は、そのままウーロンエリアで楽しむ!

シアスコーナー

人気の地形ポイント、シアストーンルの北に位置するポイントで、潮当たりの良いコーナーでのダイビングが見所。下げ潮でエントリーして、まずは柵上近くのハナダイの色に癒される。そして潮の流れに乗って進んでいくと、まずはマダラタルミとバラフエダイの群れに遭遇。その後、リーフエッジを進んで行くと、グレーリーフシャークがどんどんと現れてくる。サンゴが美しいので、カレントフックを使用して、外洋を泳ぐサメを観察。静かに見ていると、もう手の届く範囲にまで接近してくることも。撮影に夢中だったが、後でガイドさんが、「今日はサメが25匹いたよ」と教えてくれた。パラオの中でもサメの数が抜群に多いらしい。ぜひ、シアスコーナーでサメとにらめっこして、その存在にドキドキして欲しい。



ウーロンチャネル

ウーロン島の西、ロボテルリーフの水路のポイント。地形は、ドロップオフ、サンゴ、砂地とバラエティーに富む。潮当たりの良い場所を中心に、ギンガメアジ、オオメカマス、メアジが群れ、その周辺ではグレーリーフシャークが徘徊している。群れのお魚たちとサメのツーショットが簡単に見られるので、ワクワクする。ダイビングの後半、サンゴに上手く擬態していたコブシメとご対面した。



PALAU

パラオ



パラオに来たなら、やっぱりブルー!

パラオのダイビングの代名詞的存在であるブルーコーナー。ブルーコーナーでダイビングするたびに、「パラオはどんどんダイビングを好きにさせてくれる海」とう私なりの印象が強くなっていく。ずっと世界中のダイバーに愛され続けたポイントだから、多少の変化があるかもしれないが、それでもいつも潮流に洗われるブルーコーナーはいつまでも輝きを失わない。今回もエントリーしたら、ボートの下にギンガメアジの群れが待っていてくれた。浅瀬からの輝きがギンガメアジと海中に差し込む。もうそこで次に始まる素敵な出会

いが十分に想像できた。コーナーの先端に流れていくと、人懐っこいナポレオンが登場。まるでブルーコーナーの番犬のように、潜る全てのダイバーにご挨拶。そして、カスミチョウチョウウオのカラフルな斑点とホソカマスのナイフのようなシルバーが交差する。見上げるとバラクーダの大きな群れ。ゆっくり接近していくとまるで受け止めてくれるかのようにダイバーを包んでくれる。ダイバーとしての至福の幸せを感じる。

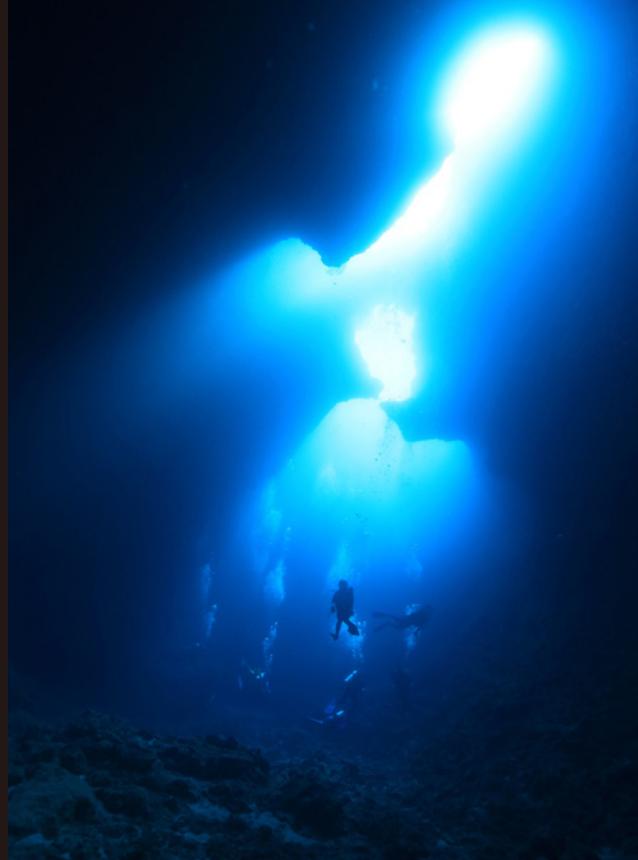


PALAU

パラオ



ブルーコーナーでお魚の世界を楽しんだ後は、お隣のブルーホールへ。ブルーホールは幻想的な地形と光を楽しむことができる。このパラオを代表するポイントの2つが並び、簡単にアクセスできるのは、本当にすごい。棚の上にある穴から潜降していく。まるで別世界への扉を潜っているよう。水深30mまで行き、上を見上げると4つの穴から光がこぼれている。これまでは、その壮大な光の宮殿を大きな視点で楽しんでいたが、今回は個々の穴にも注目してみた。穴によっては、差し込む光が、教会のようであったり、宇宙からの帰還のようであったり。ダイバーのいない空間も良いが、ダイバーが入ることで、より人間が踏み込むことのできる異空間の感覚が増す。生き物は30m付近には、アオマスクやミナミハタなど、また水深を上げたところで、フチドリハナダイやクレナイニセズメなどを見かけた。



コロール周辺で人気のダイビングポイント

PALAU

パラオ

内湾フィッシュウォッチングの定番ポイント・セント

のんびりフィッシュウォッチングを楽しみたい方におすすめのポイント。緩やかな傾斜の砂地、ガレ場にサンゴの根が点在し、ポイントの名前となったセントカーディナルフィッシュがたくさん群れている。カニハゼ、ギンガハゼはガイドさんに教えてもらわなくても見つけれれるほど多い。



自然の造形美が楽しめる 鍾乳洞ダイブ・シャンデリアケーブ

コロール周辺に位置する鍾乳洞のポイント。地殻変動で海中に沈んだ鍾乳洞でのダイビング。エントリー口は水深3 mの横穴。そこから奥行きは約50mで直線的に続いている。行き止まりまで4つのエアチャンバーがあり、それぞれの空間で、水面から顔を出すこともできる。メインは水中の鍾乳洞で、大きな柱状のものから、細かい線のつららまで多様。近くでよく見ると、宝石のようにキラキラと輝いている。これまでは、そのつららにばかりに注目していたが、今回は鍾乳洞内から見える入り口からの外光をより感じてみた。一番奥のエアチャンバーに到着するとライトを消して、入り口の方を見る。お天気の良い日は、奥まで外光が届いている。その光は弱々しいものだが、しっかりと帰るべき方向を指してくれている。その青い光を求めて、来た道に戻る。そうすると各空間にある鍾乳洞が水面に映り、鏡絵のような神秘的な世界が生まれる。まるでその先にもうひとつの世界があるように思えて、海中世界にいることを忘れさせてくれる。その世界は各チャンバーごとに違うので、ぜひ、ライトを消してシャンデリアケーブの中でしか出会えない世界を見て欲しい。

パラオの戦跡・沈船を潜る

戦後70年を迎え、天皇、皇后陛下がパラオに訪問されたのが、今年の4月。かつて第二次世界大戦の激戦地であったパラオ。パラオ近海には今も50~60隻の日本軍の艦船が沈んでいる。そのうち15~20隻はダイビングが可能な水深に眠っている。たくさんの日本兵が亡くなった船もあるが、史実をしっかりと知るといっただけでも十分な意義はあると思う。実際に日本の船なのに、潜っているダイバーは欧米人が多く、できれば日本人ダイバーにももっと興味を持って頂きたい。



PALAU

パラオ



ヘルメットレック

旧帝国海軍の貨物船。1990年に発見。別名デブスチャージ（爆雷）レック。船庫にはドラム缶のような爆雷がたくさん残る。船内には武器や弾薬など様々な遺留品が見られ、甲板上的水深は15m。山積みになったヘルメットが見つかったことからこの名が付けられる。



石廊 (IRO)

旧帝国海軍の特務艦。米軍の爆撃を受け、240名の乗員と共に沈んだ。全長143mと大きく、1ダイブでぐるっと1周できる規模。甲板上の最大水深は25m。船主と船尾に砲台などが残るが、ほぼサンゴに覆われている。イワシの群れなど棲みつく魚種も豊富。

サンゴの海で静かに眠る水上飛行機

ジェイク・シープレイン

アラカベサン島の沖、水深12mに沈む三座式の水偵察機。水上飛行機の発着場が近いために、離陸直後に追撃されたのではないかとされる。機体前部が首をもたげるように折れている。

PALAU
パラオ



今回お世話になった現地ダイビングサービス パシフィックダイバーズ・オアシス

3年前の10月にエムドックエリアに移転。海岸線に広い敷地を有するダイビングセンターで、風が通る施設内は、とても快適な空間。施設はとても充実して、屋内外の広いリラックススペース、屋外の広い温水シャワー、女性専用の更衣室など、ダイバーのための気持ちよい施設が整う。オーナーガイドでもある宮下実千代さん、若手のホープの田村沙織さん、実力派ローカルガイドのジェイソンさんを始め、陽気でフレンドリーなスタッフが集う。お店の雰囲気は「アットホーム」の一言。ダイビングスタイルも多様で、早朝ダイブからハウスリーフダイブまで幅広いダイバー層を受け入れる。専用桟橋から毎日出航。4艇のスピードボートを所有し、できる限りゲストのリクエストに応じていく。そして、パラオの立地の魅力を証明するのは夕日の美しさ。5月6月になると DC の目の前に夕日が沈む。またマングローブ、ロックアイランドも近く、シーカヤックも簡単に楽しめる。併設のお土産店では、オリジナル T シャツの販売（例えばニシキテグリのデザイン）、ストーリーボード、水着、パラオの素材を使用したネックレスや指輪などを販売している。



PALAU

パラオ



オアシスハウスリーフ

ダイビングセンターのオアシス前は、人気のハウスリーフ。その日のボートダイブを終えた後に潜るダイバーが多い。基本的にボートダイブが3本だから、所謂4本目。見られる生き物が、これまた素敵。日中から、岩の隙間から出て、大胆に行動しているニシキテグリ。岩の隙間などに隠れることなく、カメラの前で随分ポーズをとってくれる。そして、マンジュウイシモチ。こちらは、成魚から幼魚まで。なんてたって幼魚がかわいい。可憐な透けたボディがたまらなくキュート。他にピグスポッテッドシュリンプゴビー、ホシゾラハゼ、ケショウハゼ、スズメダイモドキの幼魚、セングメンテッドプレニーなどが見られる。

PALAU

パラオ



ジャイブ・カフェ & レストラン

ミナト橋近くの海岸線にあるレストラン。日本人オーナーの味へのこだわりが伺える地元の食材を使用した無国籍料理。シャコガイのマリネやタロイモのコロッケなどのパラオ料理も気軽に楽しむことができる。メニューは約90種類で、リーズナブルなのが嬉しい。地元ビールや焼酎などドリンクメニューも豊富。サンセットの時間帯からがおすすめ。



九州居酒屋

パラオの人気火鍋料理店。群馬にもいたという日本語を話せるコウさんが店主のお店で、日本人ダイバーもたくさん訪れる。鍋のスープは2種類で、そこに具材である肉類、シーフード、野菜などの30種類を煮込んで楽しむ。ソースに、唐辛子をつけた醤油とピーナツソースを入れる。これが絶品で、パラオに来ると必ずリピートしてしまう。



ザ・タージ

本格的なインド料理店。場所は美富寿司の横の階段をあがった2階。おすすめのカレーはバターチキン。少し甘みのあるテイストを求めてリピートするゲストも。他にほうれん草のラムサグカレー、タンドールチキン、プレーン他ガーリックやチーズ、アーモンドを練り込んだ各ナも美味しい。たくさんのゲストと様々なカレーを味比べするのも楽しい。



PALAU

パラオ

ウエストプラザ・デセケル

ウエストプラザホテルチェーンのひとつ。コロールの中心地にあり、多くのレストランやショッピングセンター、お土産屋さんも近くにあるので、何かと便利。1階に同系列のデセケルマートが入っているのも嬉しい。客室は全30室。TV、シャワー、トイレ、冷蔵庫、エアコン完備。室内も広く荷物の多いダイバーにも使い勝手が良い。メインストリートから少しだけ奥に入っているため、環境は静か。



ランドマークマリーナホテル

パシフィックダイバーズ・オアシスの目の前にあるリゾート。ダイビングセンターのご近所だから、送迎など何かと便利。2007年に全面改装されたおしゃれなホテルで、客室やレストランなどは洗練されたイメージがある。ルームカテゴリーはデラックス（16室）、ハネムーン（10室）、VIP エグゼクティブスイート（1室）がある。海に面し、専用桟橋もあるので、マリンスポーツを楽しむのにも便利。



パレイシアホテル

パラオの中心地コロールのランドマーク的存在であり、ダイバーに人気のホテル。7階建てのリゾート型ホテルで、1階には「DFS ギャラリー」を併設。客室は全165部屋で、様々なカテゴリーがあるので、使用目的別で選択することができる。立地、サービス、南国ムードを兼ね備えたホテル。

PALAU

パラオ

